

掲載記念



地域総合

2018年(平成30年)3月30日

kagoshima local network

みなみネット

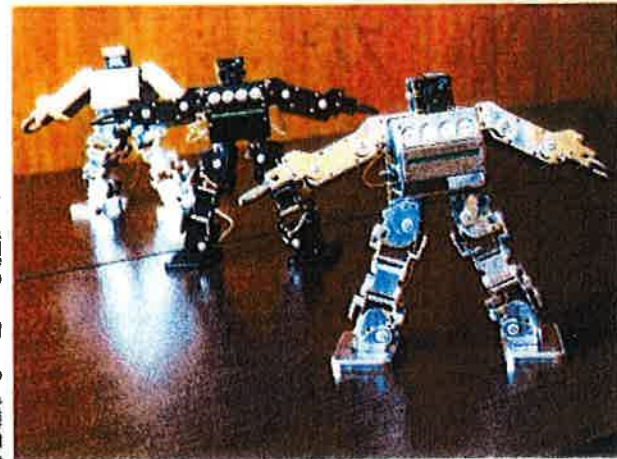
ロボ開発に夢託す

箱形のちよつと太めのボディながら軽快に歩き回り、片足立ちも器用にこなす。薩摩川内市の樋協精工が開発した超小型二足歩行ロボット「S3α」だ。3月初め、同市であった地元企業カイダンスで披露され、注目を集めた。松下順紀社長(66)は「子どもたちにモノ作りの面白さを教えたい」と、さらなる研究開発に意欲を燃やす。

薩摩川内・樋協精工「S3α」

同社は1973(昭和48)年に鹿児島県の誘致を受け、埼玉県から進出。主に精密金型の設計や製作を手掛けてきた。2015年に大手メーカーのロボット部品製造を受注したのきっかけに、独自のロボット開発に乗り出した。現在は、若手社員2人が中心になって開発を進めている。

S3αは、同社の第3世代ロボットの改良型で体長21センチ、重量約800グラム。シユラルミン製部品を組み合わせた腕や脚の関節、カメラを搭載



滑らかな動きをする超小型二足歩行ロボットS3α



ロボット開発に意欲を燃やす樋協精工の松下順紀社長(中央)と、若手社員

II 薩摩川内市樋協町市比野

「モノ作りの楽しさ教えたい」

した頭部も動く。遠隔操作やプログラムによって二足歩行し、ダンスや体操などの動きもできる。

また開発段階のため価格は1体数万円と高額だが、企業などから教育や研究用に引き合いがある。第4世代では、コスト低減と自前のソフト開発に取り組むという。

将来的には教育市場での事業化を目指す。20年度から小学校で必修化されるプログラミング教育を見据え、ロボットの仕組みやソフトウェア学習に活用できると期待している。

松下社長は「地元の子どもたちに自分の頭で考え問題を解決する楽しさを知ってほしい。ロボットを通じた学習の輪を薩摩川内市に広げ、地域振興の一翼を担いたい」と話している。(下栗淳也)

贈 (有)市比野新聞販売所